ユズ新品種‘鬼北の香里’の特性及びウイルスフリー化

ユズはトゲの発生が多くかつ長いため、収穫、剪定等の作業性が低いとともに、果実に傷がつき商品性を低下させる問題を抱えている。

ユズ新品種‘鬼北の香里（きほくのかおり）’は在来のユズに比べ非常にとげが少ない特性を持つ品種として期待されている。

また、ユズはCTV(カンキツトリステザウイルス)に罹病性で症状が著しい場合は、樹勢が低下し、果実肥大が抑制されることがある。

そのため、みかん研究所では、本品種の品種特性調査及びウイルスフリー化による健全種苗育成に取り組んだ。

写真２　鬼北の香里及び在来ユズのトゲの発生の差異

来歴及び品種特性

‘鬼北の香里’は1989年に北宇和郡鬼北町の生産者の苗木の中から見つかった変異樹で2013年3月に品種登録された。

‘鬼北の香里’の春枝でのトゲの発生は、在来ユズに比べ少なくかつ発生した場合でも、1㎝以内のものである。

写真１　‘鬼北の香里’の枝

夏枝では枝の基部側の3分の1程度の部位にトゲが発生する場合があるが、在来ユズに比べトゲの発生率は低い。

‘鬼北の香里’の果実外観及び内容成分(Brix、クエン酸含量、搾汁率)には、在来ユズと明確な差はない。

ウイルスフリー化

2011 年に簡易茎頂接ぎ木法により、ウイルスフリー個体を作出した。その後、寄接ぎしウイルスフリー個体を育成後、鬼北農業指導班内のハウスで育成していたカラタチ台木300本に接ぎ木を行った。

今後、育成した苗木からトゲの発生がより少ない個体を母樹とする予定である。

（みかん研究所　研究員　奥貞　丈博）

表１　調査枝の長さとトゲの発生率

品種名	枝長*(mm)		トゲの発生率(%)		1cm以上のﾄｹﾞの発生率(%)	
	春枝	夏枝	春枝	夏枝	春枝	夏枝
鬼北の香里	96	306	8.0	24.9	0.0	5.7
在来ユズ	92	350	49.1	75.5	3.3	51.3

＊調査枝の平均長